

適正施肥と施肥改善について

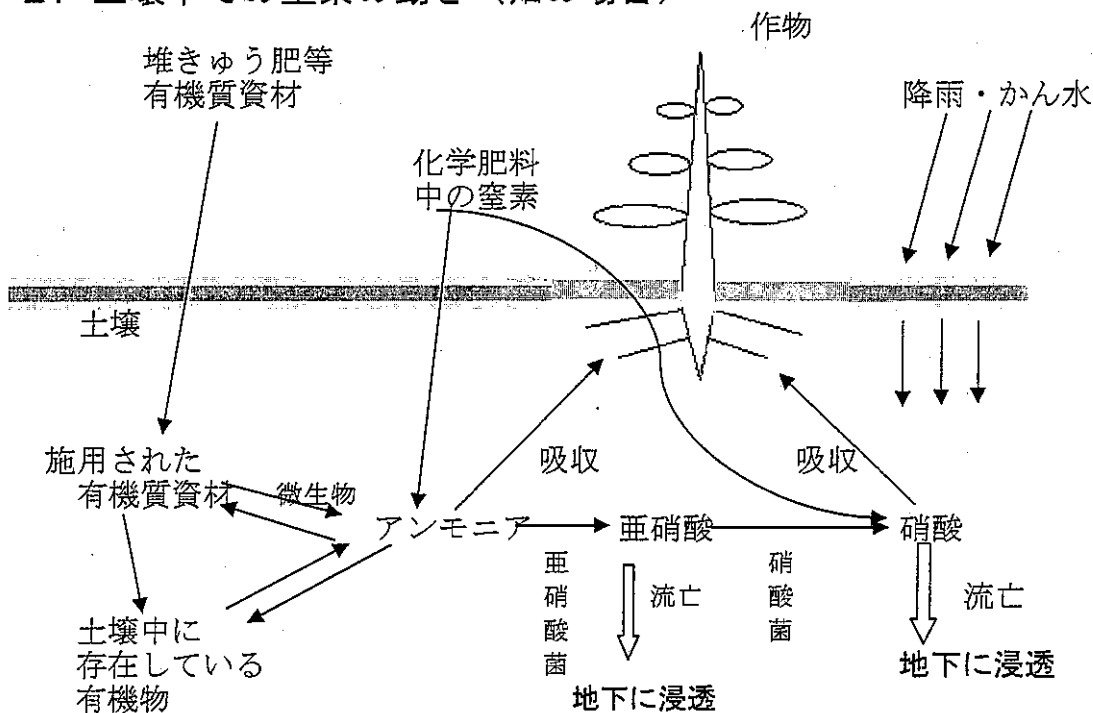
1. 環境保全型農業について(全国的段階)

農業は食糧供給機能の他に、国土や環境の保全といった多面的機能を有しています。この機能を将来にわたり発揮していくためには、農業の持つ自然循環機能の維持増進が不可欠です。

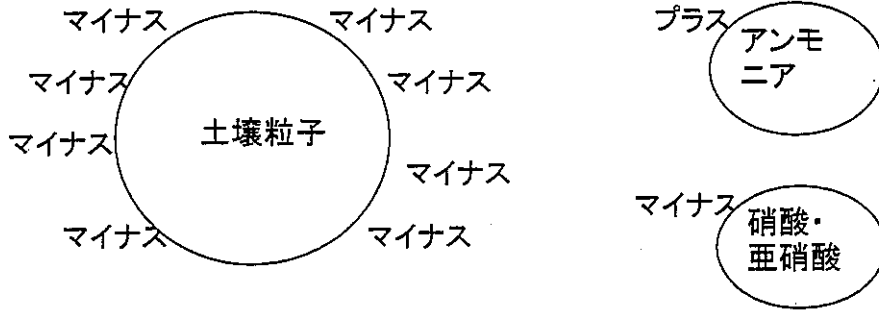
しかし、農業の現状は堆きゅう肥等の施用による土づくりがおろそかになり、化学肥料と農薬の依存による環境への影響が生じています。一方、一部では堆きゅう肥等の過剰施用による環境への影響も生じています。

このような状況への対応として、生産活動に配慮しつつ適量の堆きゅう肥等の施用による土づくりと化学肥料及び農薬の使用低減を行う生産方式として、環境保全型農業の取り組みが全国的に推進されています。

2. 土壌中での窒素の動き (畑の場合)



窒素の形と土壌吸着の関係



土壌はマイナスに帯電

アンモニアはプラスに帯電するため土壌に吸着される

硝酸・亜硝酸はマイナスに帯電するため土壌に吸着されない

3. 窒素肥料削減の方向について

(1) 堆きゅう肥の適量施用

施用量は堆きゅう肥中の窒素成分を考慮して施用

(2) 土壌分析の活用

土壌中の硝酸態窒素を施肥量に反映

(3) 肥料の吸収率を向上させる方法

長効き肥料として、被覆肥料の使用

